

印は、1日フリー券特典協賛店



高野山案内図



金剛三昧院地区

① 金剛三昧院
北条政子が、夫源頼朝菩提の為に創建されました。頼朝の念持佛であった愛染明王を本尊とし、境内の建造物は国宝・重要文化財も多く開山当時の面影を残しています。

伽藍地区

② 御影堂
鎌倉時代の尼将軍と言われた高野山のシンボルと言われる御影堂と呼ばれるようになつた。

徳川家霊台地区

③ 德川家霊台
内陣に胎臓界大日如来を本尊として金剛界四仏が安置され、16本の柱と壁に、極彩色で描かれた諸尊とともに曼荼羅世界を表徵している。現在の建物は鉄筋コンクリート造りで昭和12年に再建されたもので、高野山のシンボルと言われている。

大門地区

④ 大門
もとは現在地から西5町ほど下方にあつたものを保延6年(1140)移され、現在の建物は宝永2年(1705)の再建で、山岳仏教を表わす堂々たる風格をたたえている。

金剛峯寺地区

⑤ 金剛峯寺
高野山真言宗の総本山で、全国3600に及ぶ末寺の宗務を執っている。明治初年に弘法大師ご入定のあと、弟子たちは大師が希望していた通り、足もとに玉川の清流が流れるこの地に廟を建てました。大師はいまも変わらない姿で祀られています。おられると信じられ、高野山参詣の人々は、必ず訪れます。

奥の院地区

⑥ 奥の院
老杉や桧が茂る中に、20万基を超える墓や供養塔がならぶ奥の院。これは、弘法大師の足下に眠れば極楽往生できるという信仰によるもので、これらの墓石の中から、歴史上の人物のほとんどを見出すことができます。また墓石にまじって、「父母のしきりにこいし雉子の声」という芭蕉や其角の句碑などもあります。